

ぱびるす



聖学院大学総合図書館報

第66号(2018年春)

祝卒業・
新入生歓迎号



図書館の思い出

ブック ピロー

小林 茂之



ブック ピロー (book pillow) と聞いて、皆さんはそれが何であるか想像できるでしょうか。読書をしていて、眠くなったら、使う枕のように思われたかもしれません。しかし、それは、人のための枕ではなくて、本のための枕なのです (写真を参照)。貴重な写本をみる場合、写本の一葉 (folium) が綴じられている背表紙を守るために使われます。写本を閲覧する時、その上にページを開くと開き方が狭くなるので、そのままではページが閉じてしまいます。それで、写本閲覧用の紐状のウェイトを載せて固定します。

日本では、図書館で古英語や中英語が書かれた写本を実際に閲覧する機会はほとんどないでしょう。私も、ケンブリッジ大学図書館で古英語や中英語の写本を初めて閲覧することができました。驚いたことには、英国の図書館では素手で写本をめくって試みるのが許されていることです。和書の古文書を閲覧する場合、手袋を使うのが常識ではないかと思います。羊皮紙 (parchment) と和紙とでは、扱いが異なるのですが、実際に触ってみるテクスチャーが重要らしいのです。

それでは、ケンブリッジ大学図書館で、写本を閲覧する際の手順を説明しましょう。はじめに、利用者証を発行してもらわなければなりません。その手続きは、入口左手の地下のオフィスで、書類に必要事項を記入して、写真入りの入館証を発行してもらいます。その際に、写本を閲覧するための書類を記入します。ただし、ケンブリッジ大学のコレッジなどのセクレタリーからその書類にサインをもらうことなどを求められます。なお、日本人の図書館員 (キュレーター) がいるので、呼んでもらえば、相談にのってくれるはずです。

写本は、写本閲覧室内 (Manuscripts Reading

Room) のカウンターで請求します。請求票にカタログ (閲覧室内、または web 上からも利用可) で写本の請求番号を調べ記入します。後は、図書館員から呼ばれるのを待ちます。さて、そこで、ブック ピローが必要となります。室内の棚にブック ピローと紐状のウェイトが置かれているので、それらを閲覧用のテーブルに持ってきます。カメラで撮影することも基本的に許可されていますが、写本の開き方が大きいと注意される場合があります。

重要な写本の多くは、EETS (Early English Text Society) などで翻刻されて出版されています。しかし、原本と比較してみると、学術的に貴重な経験以上のものです。今まで見た最古の写本は、ベータ『英国教会史』の738頃に書写された写本 (MS. Kk. 516) です。それを実際に手で触り、閲覧するという経験は実に感動的であり、人文学の研究者であることの喜びに浸ったことはケンブリッジ大学の図書館の思い出の一つです。

(人文学部日本文化学科 教授)



ブック ピロー (撮影: 小林 茂之)

